

野根山街道物語

宿屋杉編

野根山連山

室戸半島を奈良町から東海野根まで野根山連山の尾根筋に沿って横断する。海沿いの難所を避けに官道として養老2年(718年)に開設されて以来明治33年(1900)県道が海岸を通じるまでの約1200年間、幾々の歴史に立ち会い、伝説や民話を生み、人々の汗と足跡が刻まれた往還道。有史以来、さまざまな山頂稜線を行き来し、名もなき道から野根山官道に昇格。奈良の都と工部を結ぶ「備前道」の一部となり、紀貫之の入国や、土御門上皇の流罪や長曾我部氏の四国制覇、やがて藩主山内氏の参勤交代における江戸往復ルートの一つにもなる。歴史に残る人がいる裏側、庶民の苦勞に於てこの道が整備され、継承されてきたことを心にとどめておくべきである。街道周辺の村々、百姓は道普請や荷送りなど、多くの使役に駆り出され、大きな負担となり、殿様だけでなく、幕府からの巡検使など、役人の往来が激しくなるにつれ、農民、村役人たちの苦勞がますます増える。今この道を歩みながら歩く時、先人の苦勞をしのび、当時の暮らしの思いをはせることしかできないが、想像をよいくらいの汗を流した苦勞がしみこんだ道だ、ということも忘れてはいけない。

笹飛脚

奈良町にあり、送る番所には若い者が日夜話めいた。ここには番屋と馬屋が設けられ、回中に急用が来ると「笹飛脚」(蓑状を肩にした笹の葉が柵のないつらに走る特急便)が冬でも裸いっせいで走ったといわれ、険しい野根山街道35kmを3時間で走り抜けた笹飛脚がいたといわれている。(44km送る)



参勤交代の場合免状になると藩主はかごから降りて歩き、平坦な道ではまたかごに乗って進んだ。



東に向かえば行き先は早し、西に向かえば街道最後の峠。みたら坂の道が近づく。

米ヶ岡

北川村野原の庄屋白石左五衛門が土地の百姓の二男三男を助成として土地を開墾して現在の水田が開かれたと伝えられている。左五衛門は宝永5年(1628)に死去しているが、米ヶ岡開墾の恩人として白石神社に祀られている。

六部遠路 六十六部の早敷をたてた法華教を全国の国分寺などに納めるため諸国霊場を巡る旅を行う僧侶。

六部様

六部遠路を祀っている。戦時中には近郷の出征兵士やその家族から信仰を集めていた。ここで没した六部遠路は、水に溺れ息絶えする時、水が湧き出たところから水が湧き出た。今その跡があるという。また一説には、銃砲で撃たれたといわれ、S21頃にこのあたりが伐採された時に大木の中から六部遠路が現れたと云う。六部遠路が現れたと云う。六部遠路が現れたと云う。

笑い相

寛永年間(1648-1854)のころ、米ヶ岡の兵燹の跡といわれ、代木ヶ岡山に入ると、突然、轟々と大音が響いた。大木が倒れ、下山中、つがねで休んでいた。今度は、つがねの音で笑い声が聞かれた。再之助は、女は変化か出たと無我夢中で逃げ、痛く、足は、痛く、切れた。形が、なつかしく、以来、この相を「笑い相」と呼ぶようになった。

石畳はあまりやすく、足首をひねらないように、特に下りは慎重に。スギの落枝も足下、ひかかると注意。

つかれて、歩きたくないときもある。

参考引用文献
 ○四国のみち(野根山街道パンフ)
 ○野根山街道散策マップ
 ○室戸市の民話・伝説
 ○高知の森林

このあたりは野川山固有林

山仕事は重かに逆う正労働

間作

野川山の御留山は天保年間(1830年代)に採掘された。遺跡をたぐり、農民にはその中でソバ、アワ、ヒエなどの間作を許す方針がとられ、地元民に生活の端で与え、労をねぎらい、下りにはお茶をふるまう。削減する一石二鳥の政策であった。

街道両側の立派な旧藩林は昔からの道によく合っており、とりした古道のたぐいまれいを見せている。

宿屋杉

昭和9年の室戸台風で倒壊するまでは、肥高周囲16.6m、樹高32m、樹令千年以上ともいわれていた。根元の空間の広さは、四畳半ほどあり、数人の四~五人は泊まることのできたという。

すぐそばに二里塚

山越えの道のみ、約30kmに及ぶ。長之の古道は、他處に例を見ることがなく、日本の長距離古道。

宿屋杉

藩政末期に植林された樹令180年以上の旧藩林が適切に管理されている。

旧藩林

土佐藩は街道の崩れを防ぐため、日陰をつくるために、街道の両側、十五間以内(一間8.2m、約27m)と御留山として木材の伐採を禁じていた。街道中、ここだけが昔の面影を残している。土佐藩家老野中兼山は、森林着用の乱れを防ぐため、伐採を50年とする輪伐制を導入し、土佐藩林を経営して、優良な木材を生産していた。

塚の塔(相の森)

87m(奈良町側)

電波塔

0.6km

熊笹峠

南面の展望が開けて、とても気持ちのよい所。ハンチもある。

装束森

野根山街道のほぼ中央。街道中の最高峰1082m。西面東部、最南端の1,000m山。街道を登ってひと休み。一等三角点と展望台があり、360°の絶景が広がる。殿様が参勤交代の帰りに旅装を纏ったと云うので、山を越えて田野や奈良に帰るに、花嫁衣装に衣を着たところ、多々ある。(室戸市最高峰)

参勤交代

土佐から江戸までの参勤交代には、浦戸から船にのり、北山越えは、甲浦には阿波から船による三つのルートがあった。四代山内豊昌の元禄元年(1688)の記録によると、3月10日 城下発、11日 赤田泊、12日 田野泊、13日 岩佐まで野根泊 滞在、22日 甲浦泊 滞在、26日 甲浦出航、4月2日 大阪着。人数で、大変な長旅である。

参考引用文献
 ○四国のみち(野根山街道パンフ)
 ○野根山街道散策マップ
 ○室戸市の民話・伝説
 ○高知の森林